

5-11

施設生活を有意義に・・・

～K氏と職員との関係作りに力を注いで～

特養

ユニットケア

社会福祉法人 聖風会 特別養護老人ホーム「足立新生苑」

ユニットリーダー： 小林 孝司

共同研究者：主任・ ユニットメンバー4名

東京都足立区花畑4-39-10

TEL： 03（3883）7946

E-mail： sinseien@seifuukai.or.jp

FAX： 03（3880）0950

URL： <http://www.seifuukai.or.jp>

【施設・事業所の概要】

併設：在宅サービスセンター・地域包括サービスセンター・ケアマネジメントセンター

入所定員：220名 ショートステイ：16名

〈取り組んだ課題〉

- ① 器質的精神障害、統合失調症と判断。また、失語症もあり、とても聞き取りにくく意志疎通が困難。
- ② 本人の意に反すると興奮し激怒する。→特に女性職員が関わるのを怖がり、氏と職員との距離が自然と出来てしまう。
- ③ 本人私物に手を触れられるのを好まず、居室、ベッド周りの整理整頓が困難。衣類の汚れも目立つ。
- ④ 家族との関係も悪く（特に妻）、時折、面会に来るキーパーソンの長男も氏自身に面会せずに帰ってしまう状況なので協力が得られない。

〈具体的な取り組み〉

- ① H17年5月に他フロアより移動し、個室対応となる。
- ② 失語症があるため、職員から意識して声掛けを行い、会話につなげてゆく。
- ③ 職員側の意向を話し、納得してもらった上で、行動して行く。
- ④ 氏と共にベッドのシーツ交換を実施。（氏の几帳面な性格を考慮）
- ⑤ 衣類を洗濯に出すのを拒み、フロアにある洗濯機・乾燥機を氏と共に使用して行く。
- ⑥ 買物、散歩など、関係作りを増やして行くために時間をつくり実施して行く。
- ⑦ 普段の会話から氏の家族への思いを引き出して行く。
- ⑧ 施設生活が安定してきた矢先の居室移動（H18年3月、個室→4人部屋）が決定したため、期間を設けて氏と話しをする機会を作って行く。
- ⑨ 居室移動の際、氏自身も引越に参加してもらい、

納得したベッド・タンス配置を決めて進めて行く。

〈活動の成果と評価〉

- ① 氏に対する職員の心構えの変化
- ② 日々の生活で氏がとても研究心が強く、色々なことに興味を示すことがわかった。（若い頃には、カメラ・スケッチの趣味があったとのこと）
- ③ 汚れてしまった衣類の交換、また入浴の際に着替えた衣類を洗濯に出すことが定着し始めた。
- ④ 職員側の意向を伝える際もスムーズに傾聴して下さるようになった。
- ⑤ 日々の安定した生活から、表情もとてもよくなり興奮し激怒することが減少した。
- ⑥ 長男の面会で対面が成功し、終始穏やかであった。（H17年12月）
- ⑦ 居室移動がスムーズに行うことが出来た。

【まとめ】

氏と真剣に向かい合って話す事をユニット職員及びフロア職員が、この1年やり続けた結果、信頼関係が築けたことを実感している。また、統合失調症や認知症だからといってその枠にくくることなく、一人間として接してきたことの成果であったと感じている。

〈今後の課題〉

今よりも施設生活をより有意義になることを目指して氏と関わって行きたい。

- ①妻との対面 ②趣味の再開 ③引き続き、整理整頓

〈参考資料など〉

- ①ケアプラン ②ライフサポート ③日々のケース記録